



あびこ市民活動 ネットワーク 会報

令和 3(2021)年 10 月 15 日発行

第 59 号

発行責任者 宇野眞理子
我孫子市湖北台 4-11-16



ウイズコロナ時代の到来



あびこ市民活動ネットワーク

代表 宇野 眞理子



緊急事態宣言が 9 月 30 日に解除されました。コロナ禍での生活が 1 年半以上も続き、それが日常になって来たこの頃です。解除と同時にこれから私たちが考えていかなければならないことも見えてきたように思います。コロナ禍で色々な声が聞こえてきました。

外に出ないので、太ってしまった・歩くと躓き易くなった・生活に張りがなく減入ることが多くなった・スマホや Zoom の活用がうまくできれば良いがなかなか一歩を踏み出せない・病院や施設の面会が思うようにできないので心配・調子が悪くても病院に行きづらかった・離れた家族と会えないのでさみしかった・リモートワークが増え家庭内の役割分担にも変化があった・子育てに不安を抱えるようになった・なんとなくイライラし、些細なことで言い合いになることが増えた等。

これから、私たちはコロナ禍の教訓をもとにウイズコロナ時代の活動手法を実践していかなければなり

ません。

①「感染しない・させない」を合言葉に、生活の中の感染対策の意識を高めながら、自分・家族・友人・地域の仲間を守っていく必要があると学びました。またパルスオキシメーターや CO₂センサーなどを常備しておくで安心。

②人と対面できないのための、一番手軽な道具としてのスマホの活用スキルを磨いておく必要があると感じました。また手紙やはがきを出すことも「心にするおいをもたらせてくれる」と再認識させられました。

③『プロダクティブ・エイジング』の実践

時間・楽しみ・情報・食物など今まで培ってきた知識や技術等を自分以外の誰かと分かち合いながら、「つながりを大切に地域を活性化させていく」こんな視点を持ちながら、あびこ市民活動ネットワークも活動を徐々に本格稼働させてゆきたいと思っています。どうぞ、これからもご支援・ご協力をお願いします。

社会福祉協議会新会長に鈴木壽幸氏、新事務局長に横田光夫氏



あびこ市民活動ネットワークの皆様には、地域福祉の推進の担い手としてご尽力をいただき、敬意と感謝を申し上げます。

この度、6月21日に開催された理事会におきまして、会長・事務局長の改選があり、我孫子市社会福祉協議会新会長に鈴木壽幸が選任され、新事務局長に横田光夫が選任されましたので、ご報告いたします。

近年の急速な少子高齢化や人口減少、個人や世帯が抱える生活課題の複雑化が進む中、新型コロナウイルス感染症の拡大などにより、人と人とのつながりの希

社会福祉協議会 会長 鈴木 壽幸

薄化が、ますます深刻化しています。これからは、新たな生活様式に合った多様な社会参加の機会の創出が、より一層求められているところで

す。
社会福祉協議会では、「安心とゆとりのまち住み続けたいまちづくり」を基本理念として、地域の生活課題をしっかり捉え、安心して地域で暮らしていけるよう、地域福祉の推進に努めてまいりますので、今後とも、ご指導ご協力をお願い申し上げます。



横田事務局長

< も く じ >

- 1P あびこ市民活動ネットワーク代表挨拶／社会福祉協議会会長挨拶
- 2P 部会報告／事業計画に基づいた活動：①グループ ②グループ
- 3P 事業計画に基づいた活動： ③グループ
- 4P 市民のチカラまつり 2021



- 5P 会員の活動あれこれ：一粒の麦/我孫子革新懇
- 6P 地域活動あれこれ：高齢者のための便利屋さん
- 7P あびこ市民活動ネットワーク役員会報告
- 8P みんなの掲示版/市民活動ステーションからお知らせ

活動報告

◆①グループ 市民活動支援指針を実りあるものにするための検討事業



市の“ポータルサイト”整備に協力 関心、知識のある方の参加を歓迎します

あびこ市民活動ネットワークは、前回会報でご報告した通り、我孫子市が本年4月、5年ぶりに見直した市民公益活動支援指針を実りあるものにするためのグループを設置し、他の関連組織とともに我孫子市の支援施策企画に協力しています。

我孫子市はいま、予算措置を伴う令和4年度の新施策を検討するとともに、すでに予算化されている施策や、予算がなくてもできる支援策を検討、その一環としてこのほど、別項のような「市民公益活動に関するポータルサイトの整備」を計画され、先般、本会、あびこ市民活動ステーション、我孫子市社会福祉協議会への説明会が開かれました。今後具

体案についての意見交換などを進めることになっていきます。

インターネットの中のいろいろな市民活動や市民活動団体の情報にアクセスするときの入口となるポータル（入口）サイトは、特に、市民の方々の市民活動への関心を高めるための方策としてかねて懸案となっていたものです。本会は今後、適切なポータルサイトが出来るよう、積極的に取り組む予定です。会員の皆様で、このシステムに関心、知識をお持ちの方には、ぜひご参加いただきたいと思えます。どうぞ事務局までお申し出ください。

(別項) 市民公益活動に関するポータルサイトの整備に取り組みます

我孫子市市民公益活動支援指針では、今後の施策の例として「市民公益活動に関するポータルサイトの整備」を挙げています。また、あびこ市民活動ステーションのホームページが市民活動情報の総合的窓口として再構築されました。

令和元年に実施した市民を対象とした調査では、「市民活動を盛んにする上で必要性が高い事業」について、「活動に役立つ情報の発信」、「市民活動の活動紹介・普及活動」の必要性が多く挙げられており、今後も情報発信の重要性は高く、これから活動を始めようとする人が知りたい情報を得られるよう、ニーズに合った情報提供の工夫が必要であると考えています。

その一つとして、市、指定管理者、社会福祉協議会、市民活動ネットワークがホームページで発信し

我孫子市市民活動支援課
ている市民活動（ボランティア）への参加情報をより探しやすいようにするため環境整備に取り組んでおり、これにより市が募集する22以上の事業についても11月までには新たな形で情報発信できる予定です。

その他、団体の活動を広く発信していくため、市フェイスブックにおいても、団体との協同事業などの情報発信の際に団体情報や会員募集を併せて発信していくこととしました。

今後も情報発信に力を入れ、市民活動に参加することがない市民が活動を知り参加できる機会を増やし、また、自治会やまちづくり協議会と市民活動団体が今以上に連携し合えるまちづくりに取り組んでいきます。

◆②グループ 地域共生社会づくりを推進するための事業

地域住民のニーズに対応する支援体制づくり



この事業は、令和2年2月6日開催の「地域共生社会づくりを考えるシンポジウム」以降あまり進展していません。担当課職員との情報交換程度にとどまっています。今年度社会福祉協議会の会長・事務局長の交替もあり、改めて高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を市から委託されている社会福祉協議会としてどう考えていくのかを伺いました。

昨年秋に協議体12名の委員改選もありましたが、コロナ禍で会議の開催が出来ず、今月15日に初顔合わせをしながら、我孫子市全域でどう取り組みを強化していくのかの検討が予定されています。事業グループとしては、担当課との連携を取りながら情報共有に取り組んでいきます。会員と一緒に活動していただける方の参加も歓迎です。事務局までご一報ください。

◆③グループ 子ども応援団事業

生きづらさからの大脱出 Part4

大人たち みんなで 変わっていこう

あいのままのキミがいい。



あびこ市民活動ネットワークと市民活動ステーションが協働で行っている子ども応援団事業も、4年目を迎えました。昨年のPart3開催後に当事者や親の会、支援者の活動が活発化していることから、実行委員会を立ちあげ、9月26日（日）、我孫子市南近隣センター多目的ホールで実施しました。

【第1部 堀内祐子さんの講演】「お母さんが幸せな姿を子どもに見せましょう」



堀内祐子さんは、発達障害（アスペルガー症候群・ADHD・LD）を持つ4人の子の母親で、子育てについて講演、著作でご活躍です。4人のお子さんもすべて社会人となったとのこと。経験を通じて得た子育てのヒント

やアドバイスを話していただきました。

堀内さんは、全否定する父親と全肯定する母親に育てられた、否定的な言葉は相手を傷つけ生きる気力を奪う、だから子どもたちの人格を絶対に否定しなかったと言います。でも育児に疲れ果てて、逃げたいと思ったことはあるそうです。それを救ってくれたのは責めずに「いいよ、やめていいよ」と言ってくれた夫の一言と、「あなたは一生懸命にやっている。自分を責めないで」と言って

くれた友達の言葉でした。その時うしろばかり見ていたことに気がつき、自分がこの子のために何ができるかと前を見ることができました。

堀内さんは、親の役割は情報提供だと言います。親はあらゆる情報を提供して、子どもに自分で決めさせる。次男が進路に悩んだ時にも、「道はいっぱいある」と選択肢を示したそうです。彼はそこから自分で選択して頑張って今があるとのことでした。親はいつも子どもを観察して、「何を言っているか」ではなく、「何を言いたいか」を察することが大切だと言います。

最後に、「人生を楽しみましょう。お母さんが幸せな姿を見せましょう。大人になったらこんなに素敵なんだと子どもに見せることが親の役割だと思っています」と結ばれました。

【第2部 パネルディスカッション】「一人で悩まず理解してくれる人に相談することが大切」

シンガーソングライターの悠々ホルンさんをコーディネーターに、堀内さん、青空の会我孫子の杉山さん、大人たちから変わろうの会の野崎さん、アドバイザーとして遠藤美香我孫子市教育研究所所長の5人で、会場からの質問を中心にパネルディスカッションを行いました。不登校のこと、進路のこと、人との関わり合いのことなど、それぞれの経験に基づいた実りのあるお話でした。

お話の中で、学校に行き渋ったときにどうしたか。堀内さんは、「行きたくない時は行かなくてもいい。でも学校との連絡はしっかり取ってつながっているのが大事」。杉山さんは、「学校に行かなくても子どもは育つ、好きなことを極めてそれを応援していくのが大切」と話しました。野崎さんの子どもは起立性調節障害で、朝は体調が悪く午後になると元気になる。自分のことを友達に理解してもらえず、学校に行く意味が見いだせなくなった時、遠藤先生か

ら「学校は人と人の訓練の場所だ」と言われて行けるようになりました。

遠藤先生は、「子どもファースト。学校は行きたくない時は行かなくてもいいけれども、お母さんには学校とつながるように言う。学校も少しずつ変わってきて理解が深まっている。教育研究所の所長として、親子を支える人でありたいし、支える人を作らなければならない。大人が子どもたちを守る我孫子にしたい」と話されました。

パネリストの皆さんは、悩みを一人で抱え込まず相談すること、同じような悩みを話し合う場を持つことが大切と強調されていました。参加者アンケートには、「参加して気持ちが楽になり、元気が出た」と答えた方が多く、好評のうちに終了しました。なお、「生きづらさからの大脱出 Part 5」も、今年度中をめどに計画しています。

（担当幹事 柳川眞佐子）

市民のチカラまつり 2021

今年の市民のチカラまつりは「市民活動を知ろう！つながろう！」をテーマに9月25日(土)26日(日)の2日間にわたり、アビシルベやけやきプラザやアビスタを会場として開催されました。

参加45団体と企画委員会が様々な趣向を凝らして日頃の活動の成果を存分に披露し有意義なチカラまつりとなりました。今年は昨年引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に加えて変異型コロナウイルスが猛威を奮い、緊急事態宣言下での開催を余儀なくされました。オンラインや動画をフルに活用し対面企画は場所と日時を分散し、3密にならないよう万全の感染防止対策を整え、無事滞りなく開催することができました。



あびこ市民活動ネットワークは企画委員及び広報担当を務めました。企画部門では「平将門伝説の地を歩く」と題して湖北地区でのまち歩きを実施しました。幸い曇天・無風という散策には絶好の天候にも恵まれ、ガイドの越岡講師の丁寧な解説で参加者の皆様には大いにご満足いただきました。特筆すべきは、湖北在住の小学5年生の児童が参加してくれたことです。将来の我孫子の歴史の語り部として大切にしたい存在です。またお土産にお持ち帰りいただいた「将門餅」も好評でした。

広報関係ではチカラまつりを幅広く知ってもらうため、新たにプロモーションビデオを導入しPR活動に務めました。初めての試みでしたが好評でした。更に今年は例年と異なり長期間にわたる開催となっており、来年2月まで様々な講演会が予定されています。10月1日から31日まで「出張・市民のチカラまつり」として布佐の近隣センター「ふさの風」で初のポスター展が実施されます。詳しくは市民活動ステーションのホームページをご覧ください。これからも進化を続ける市民のチカラまつりに大いにご期待ください。

(担当幹事 中條信三)



~~~~~「平将門伝説の地を歩く」~~~~~



湖北駅北口に集合



観音寺(日秀観音)前にて住職の説明風景



将門神社

★まち歩きコース：湖北駅北口・出発→中里薬師堂→中里通り(中野家レンガ塀・星野家長屋門)→鯖大師→湖北一里塚→湖北地区公民館(休憩)→観音寺(日秀観音)→首曲がり地藏→将門の井戸→将門神社→日秀西遺跡→湖北駅南口・着(解散)

❀ ミニデイサービス・交流サロン「一粒の麦」 ❀

一粒の麦 代表 木田 典子

「一粒の麦」は市内都部に2004年に開設して17年経ちました。

名称の「一粒の麦」は聖書の一文から引用しました。「一粒の麦」の家は高齢者や市民の交流や各種、趣味や講座等にも利用できます。主な活動は我孫子市きらめきデイサービスの委託を受けているミニデイサービス「一粒の麦」が主です。

しかし、このコロナ禍の状況下、利用の参加を控える方もあって、利用人数は激減しました。「一粒の麦」でも対策を考慮して、トイレの手洗いを自動水栓に交換しました。対面の会話にはアクリル板も設置しました。現在トイレ内部を布カーテンで仕切っていますが、早めに消毒のやりやすいボード板にリフォームすることも検討しています。より安全、安心して活動するためには費用は掛かりますが必要なことと思います。

2019年7月から新たな活動として「子ども食堂」も始めましたが、当初の会食は出来ませんので今年2月からは弁当配布で対応しています。

今後の活動の課題は、スタッフ、代表とも高齢化しています。若い方や市民活動ネットワークのお知恵を頂いて継続していきたいと願っています。賛助会員募集中（年会費は1000円）。よろしくお願ひします。



利用者の皆さん



トイレの手洗い

❀ 今必要な男女共同参画事業とジェンダー平等を考える ❀



我孫子革新懇と我孫子市九条の会は共催で「市民のチカラまつり」の企画部門に参加しました。3度目の今回は、我孫子市在住の代々木総合法律事務所の弁護士林治さんに講演していただきました。

21世紀は女性のチカラが花開く世紀といわれています。我孫子市は2001年に県内唯一の男女共同参画都市宣言をし、また市民活動も盛んで地域発展の大きなチカラとなっています。さらにより良い地域社会をつくるために何が求められているのか、私たちの中の無意識の偏見や差別を考えさせられました。ジェンダーの本質とはなにか？男女を問わず考える必要があるようです。

講演では男女平等についての法整備として、①憲法②国籍法（王貞治選手の例）③男女雇用機会均等法④女性差別撤廃条約⑤育児休業法⑥男女共同参画社会基本法など詳しく解説。

我孫子革新懇 中村 良雄

次に女性差別の現状を取り上げ①ジェンダー指数（120位）を世界の中での日本の立ち位置を表にして説明②賃金格差 ③セクシャルハラスメント ④選択的夫婦別姓制度 ⑤入学試験差別では東京医大の入学試験を例に説明。

男女差別の原因について、①なぜ差別はいけないのか ②男性優位社会の背景（上野千鶴子さんの東大入学祝辞を例）③女性差別の本質を、時の権力者・支配者にとっての男性優位社会の偏見と解説。

最後に「誰でも生きやすい社会が、自分の生きやすい社会になる、だから誰も差別しない、されない社会が全ての人にとって幸せにつながるのではないのか」と締め括りました。

10月9日に市民プラザ・ホールにて行われ、38名の参加者があり、多くの皆さまから良い講演でしたと感想が述べられました。

地域の活動あれこれ



高齢者のための便利屋さん お助けマン参上！

厨川一夫さんにインタビュー

厨川さんは、14、5年前からデイヘルプや五人会（庭木の剪定作業）でボランティア活動していました。高齢者のための便利屋さんは10年ほど前から始めました。しかし、チラシより口コミで頼まれることが多く、リピーターも多いとのこと。利用者は90代、80代の高齢者の方が多く、雑草の刈り取り・庭木の剪定、家具の移動・室内の整理、不用品・廃棄物の処理、電球の取り換えなど、日常生活の困りごとなら何でもやりますが、今は庭木の剪定、草刈りだけで手いっぱい、去年は90件ぐらい、今年はすでに50件以上の作業をしました。忙しいときは他にスタッフ（男性が1人、女性が2人）にも声をかけます。クリーンセンターの建て替えのため、剪定した枝木の持ち込みが1か月に1回のため、トラックの手配などとても大変だそうです。

実は75歳でやめようと思っていたのに後継者がいないのでやめられない、体が続く限り困っている人を手伝いたい。いい汗かいて旨い酒を飲みたいというのがモットーだと笑顔でおっしゃっていました。

（連絡先 090-4847-7449 厨川）



「市民活動みんなの輪事業部」の活動について

特定非営利活動法人わごころ

この事業は、法人設立の2010年4月1日から活動しております。代表の吉田から、現行の介護保険制度等ではカバーしきれない切実な困りごとに対して、介護保険外で利用できる市民参加型による有償ボランティア設立の要望があったことから始めた制度です。主に介護保険制度等を利用している高齢者等対象のサービスですので、利用者直接の依頼は引受けておらず、担当ケアマネージャー、なんでも相談室等からの依頼のみを引受けて運営しております。利用件数は年間約600件で、通院・外出同行が7割、庭の草刈り等が2割、部屋掃除などの支援は1割程度となっております。

協力会員は、現在約10名です。すでに高齢化社会に突入している中、利用依頼は増える一方ですが、依頼内容によっては人の手配がつかずお断りせざるを得ないケースが増えてきており、これからどうしていったらいいのか苦慮しているのが現状です。

皆さんの中で、一緒に活動したいと思われる方がおられましたら、また看護師や介護で働いていた方などは大歓迎ですので、ぜひご一報ください。お待ちしております。

（連絡先 04-7181-0556 富野）

民間事業者にも広がるサポートの輪

(株)目黒（読売新聞我孫子中央・アトム電気）

目黒 勤さん

新聞の配達・集金の際に高齢者からお困り事を聞いて、ちょっとした手助けを始めたのは17年前。その後、困りごとを耳にする機会が増え、7年前に新聞販売店と電気店を母体に便利屋業をスタート、現在は2名体制で取り組んでいます。

毎日配達してくれる新聞店が母体ということで高齢者の信頼も厚く、買い物代行、掃除、家具の移動など多岐に渡る依頼を受けています。電球の交換など小さい依頼もすぐに対応。フットワークの軽さが身上です。「最近庭木の剪定の依頼が多いですね。植木職人も高齢化し、受け手がないのが実態です。依頼事は多岐に渡り、どこまで踏み込むのが課題ですね」と目黒さん。企業にも広がる支援の輪が心強いです。

連絡先 04-7185-0345

(株)ブイ・マックス

森 勝義さん

東我孫子を拠点にお助けサポートを続けている森さんの本業は電気通信工事会社の経営。地域貢献のひとつとして喫茶店を運営しながら、耳にした困りごとをお手伝いしたいと便利屋を立ち上げたのが約6年前。水道修理から電気工事などご自身のスキルとネットワークを活かして多彩な依頼に対応しています。

口コミで依頼者が増え、高齢者なんでも相談室と連携、さらに「高齢者のための日常生活困ったときガイド」にも紹介され、依頼は増える一方です。「水道修理で高額費用を請求されるなど、高齢者が業者につけこまれる被害が多発していて心配です」。リフォームも請け負い、補助金の申請から親切に対応。庭木の剪定も多い依頼だとのこと。「九州で暮らす親の世話はなかなか出来ないけれど、我孫子で高齢者の手助けをすることで、きっと両親も郷里で誰かに助けられているだろうと思っています」。

連絡先 04-7157-2094

あびこ市民活動ネットワーク役員会報告(2021.7~9月度)



■ 7月度役員会 7月8日(木) Zoom会議との併用 報告検討事項

- 1、会報の発行について
・7月15日午後1時30分から印刷2時から封入作業
- 2、市民のチカラまっりのチラシについて
・昨年同様チラシ作成、提出期限7月末日
- 3、市民のチカラまっりに絡めての事業実施について
・子ども応援団事業共同主催
日時：2021年9月26日(日)
13:30~16:45
場所：南近隣センター多目的ホール
第1部：基調講演堀内祐子さん「ゆるみ☆子育て」代表
第2部：パネルディスカッション
・堀内祐子さん、我孫子市教育研究所遠藤美香所長
大人たちから変わろうの会、青空の会
・コーディネーター 悠々ホルンさん
第3部：つながりタイム・・・市内外の支援団体や親の会が参加予定

4、グループごとの事業展開について

- ①市民活動支援指針グループ
・市民活動支援課に於いて、庁内のアンケート・ヒアリングを7月中にまとめる。
・8月~9月に市民活動支援指針グループと会議を開く。
・指針の何を優先してまとめていくか。
・指針の見直しに書かれていないものなどの問題点、
・施設使用料の受益者負担の問題を受益者、市民の側から意見を出すなど。
②地域共生社会グループ
・集まりを持って次回役員会までに方向性を出す。
③子ども応援団事業グループ
・事業(市民のチカラまっり共催)についてはほとんど決まっている。

■ 8月度役員会 8月12日(木) 活動自粛のため休会

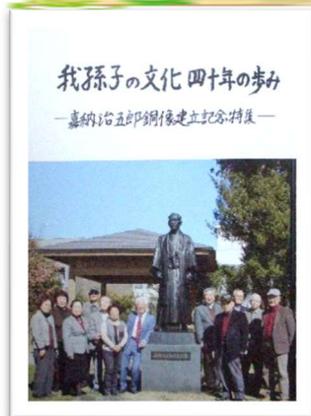
■ 9月度役員会 9月9日(木) Zoom会議との併用 報告検討事項

- 1、各グループからの報告
① 市民活動支援指針グループ
・ホームページを活用した情報発信に関する協議について(市民活動支援課資料)及び我孫子市がホームページで募集している市民活動(ボランティア)募集22団体一覧(会員に送付済み)について意見交換した。
② 地域共生社会グループ
北地区何でも相談室とパネルディスカッションを企画予定。
③ 子ども応援団グループ
9月26日(日)生きづらさからの大脱出IV~大人から変わろう~について堀内祐子さんに依頼する内容について
・講演会では、堀内さんにいろいろな年代でのエピソードを話していただく：60分。
チラシ作成について
・8月20日チラシ完成、印刷。9月1日市民のチカラまっりチラシと一緒に学校等へ配布
- 2、市民のチカラまっりにについて
実行委員会形式から企画委員会になった。
緊急事態宣言下での感染対策を再確認する。
9月25日(土)26日(日)の2日間
45団体が参加
「平将門伝説の地を歩く」お土産は「将門餅」
- 3、10月15日発行予定の会報について
・会報59号内容：予定原稿について説明があった。
・10月15日午後1時から印刷、13時30分から封入
(担当幹事 渥美節子)

~~~~~★ 事務局から ★~~~~~

- ◆会報の「みんなの掲示板」に会員団体のイベントPRや会員募集、他の会員への呼びかけなどの掲載を希望される場合は、事務局(メール a23se@cocoa.plala.or.jp)までご連絡ください。
- ◆アドレスご登録の会員には、この会報電子版や、イベントなどのご案内をメールでもお届けしています。アドレスの新規登録をご希望の会員も上記にご連絡ください。
- ◆各団体の役員・担当者・連絡先等に変更があった場合は、その都度、あびこ市民活動ステーションにFaxにてご連絡するようお願いいたします。(Fax 04 7165 4370)
- ◆次号は1月15日発行予定です。

みんなの掲示板



嘉納治五郎銅像建立と「40年誌」刊行のお知らせ

我孫子の文化を守る会

昨年4月嘉納治五郎別荘跡に治五郎師範の銅像が建立されましたが、引き続き当会創立40年を記念して『我孫子の文化四十年の歩み』を刊行しました。

特集として「銅像建立の一連の経緯」の詳細を掲載するとともに、当会のこの十年間の活動を記録しました。我孫子と治五郎師範との関係について埋もれていた歴史を発掘したとして「治五郎研究のひとつの到達点」との評価も頂いております。

この40年誌は書店に置いてありますが、「あびこ市民活動ネットワーク」の会員の皆様にもお読み頂きたい、我孫子の文化を守る会会員価格（定価1,200円を1,000円）で頒布します。

お申し込みは美崎（080-3410-4426）までお願いします。

審議会報告



第6次我孫子市地域福祉活動計画にかかわる計画策定合同会議について

我孫子市第6次地域福祉計画 評価委員 富野 浩司

第6次我孫子市地域福祉活動計画の策定にあたり、これまでの事業・活動などの評価、地域課題などを検討する予定で、8月26日の開催案内がありましたが、コロナ緊急事態宣言の発出により書面での開催になりました。第6次計画の「理念」・「目的」および「分野別検討シート」について意見を求められ、次回開催時に再度検討するとのことでした。

あびこ市民活動ステーションからのお知らせ

市民のチカラまっりのメインイベントは終わりましたが、10月は企画部門の講演会や布佐での市民活動団体のポスター展示を行います。下半期は、シニア対象の講座を充実させたいと思います。

■出張市民のチカラまつり@布佐

10月2日（土）～10月31日（日）、ふさの風近隣センター・ロビーにて
市民活動団体ポスター展開催

■シニア向けパソコンの困り事何でも相談会

市民活動団体のパソコン・スキルの向上に役立つよう、10月から来年3月まで、マンツーマン相談会を毎週水曜日に行います。「パソコンのスイッチの入れ方がわからない」など、どんな小さな困り事にも対応します。

日時：毎週水曜日（10月は6日、13日、20日、27日）

9時～16時（1人60分まで、月1回）

会場：あびこ市民活動ステーション・コミュニティオフィス

協力：チーム ハマダ・ヤマダ 定員：各日6人 費用：無料

お申込・問合先 電話FAX 7165-4370 メール abikosks@themis.ocn.ne.jp

